

# ほと 教育センター通信

## 火床の火の心を紡ぐ

第12号（通算第18号）  
平成27年2月26日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行



“節分集会”（2月3日、嵐南小）  
～本成寺「奉讃会」の皆さんが  
「鬼踊り」を披露しました！～

### 心は、いっしょ。

教育センター指導主事 池田 岳康

今から20数年前、ヨーロッパを巡るツアーに参加しました。生まれて初めての海外旅行です。その日はフランスでルーブル美術館見学の後、自由時間となりました。ホテルに戻ってから自由時間を楽しむツアー客の中、私は行きたいところもあったので、ツアー客と離れて行動しました。ホテルには地下鉄で帰ることができるので、日本語観光ガイドで地下鉄路線図を事前に調べ、自由時間を過ごしました。ホテルに戻る時間になり、地下鉄を探しましたがあるべきところに駅がありません。道行く人に片言の英語で尋ねますが相手はフランス人です。英語が伝わりません。もちろん日本語など全く通じません。地図を見せても日本語地図なので伝わりません。相手が親切に教えてくれても私は全く理解ができません。不安な気持ちで相手の目を見ることはできません。何とか駅に着いたものの、路線図は私が調べたものとは全く異なっていました。どの電車に乗るかが分かりません。地下鉄に乗ると今度は周囲の好奇な目が気になり、周りを見てもらえません。予定が大幅に狂った事実と言葉が通じず思い通りにならない不満やホテルまで戻れるかという不安がそうさせたのです。不満と不安に押しつぶれそうになりながら、駅に着いた頃には日もすっかり暮れていました。駅を出ると、昼間にはいなかった警官が自動小銃を抱え町中に立っています。夜の暗さと本物の銃を見て、今度は恐怖が襲ってきます。やっとの思いでホテルにたどり着いたとき、涙があふれて止まりませんでした。

こんな話を、子どもたちに聞かせてあげることがあります。特に初めての環境や急な予定の変更に  
対応できず大声で泣いてしまったり、怒ってしまったり、独り言を言い続けたりする友だちが身近に  
いるときによくする話です。自分が知らない場所や言葉が通じない場面、相手の言うことがよく分  
からない時や自分の想像していたことと違うことが起こる時、自分のやり方が全く通用しない時は、誰  
だって不安になることを伝えるためです。行動の仕方は人それぞれかもしれないけれど、感じるこ  
とは変わらないということを伝えたいのです。不適切な行動ではあるかもしれないけれど、感じる心は  
同じだということを知ってほしいためにです。

自分と相手の個性や特性を尊重する「みんなちがって、みんないい。」という考え方をもつことは、  
もちろん必要なことです。そこに加えて、「感じる心はいっしょだよ。」という共感の考えをもつこ  
とができるれば、行動上や情緒面で特性のある友だちへの理解もより一層深まっていくのではないかと思  
います。

## 平成26年度「授業力向上実践研修」

5月9日の「ガイダンス」を皮切りに、4回の学習会と研究授業を経て、Step1 研修受講者は「授業づくり実践記録」を、Step2 研修受講者は「教育研究論文」を執筆し、今年度の研修を終えました。

〔Step1 研修の趣旨〕 教職経験年数2年目から5年目の教員に対し、指導力の向上を目指し、授業づくりの基礎的な研修を行う。

No.	学校名	氏名	学年	教科	年数	No.	学校名	氏名	学年	教科	年数
1	一ノ木戸小	池田清太郎	2年	算数	3年	10	森町小	金子 裕彦	4年	社会	5年
2	嵐南小	石川 悠也	4年	社会	2年	11	飯田小	清野 美香	4年	算数	2年
3	嵐南小	今井雄一郎	5年	理科	2年	12	第一中	梅田 桂祐	2年	数学	2年
4	裏館小	眞保佳世子	2年	算数	2年	13	第一中	鎌田 雅俊	2年	英語	4年
5	裏館小	豊田 宏輝	5年	国語	2年	14	第二中	金杉 聖奈	2年	社会	2年
6	西鱈田小	西村美帆子	2年	国語	2年	15	第三中	金泉 翔	2年	社会	2年
7	月岡小	永井亜優美	特支	特支	3年	16	第三中	星野 弘恵	2年	国語	2年
8	大崎小	根津 知美	5年	国語	2年	17	本成寺中	船山 知紘	1年	理科	3年
9	大崎小	山田奈津美	6年	体育	5年	18	栄中	岩崎 舞	2年	英語	2年

〔注〕 学年：所属学年等 年数：教職経験年数(H27.3.31 現在) 特支：特別支援学級、特別支援教育

【受講者の声】 ※評価 大いに役立った：79% やや役立った：21%

- 授業の事前・事後のご指導をいただく中で、課題提示・発問の仕方等指導技術を学ぶことができた。
- 教材の面白さや楽しさを様々な目線でじっくりと考えることができた。
- 自分が子どもにさせたいことを押し通すのではなく、子どもが楽しいと感じる授業づくりをしていくことで、今までよりも児童の実態やそれに合わせた支援の仕方について深く考えることができた。
- 自分の授業を振り返ることができる大変貴重な研修である。さらに担当指導主事から直接ご指導いただける点はとてもよく、有意義な時間となった。仲間が書き上げた実践集を読み、吸収できるところは吸収し、授業力をさらに一回り向上させて1年間の研修のまとめとしたい。
- これで終わりにせず、学んだことを少しでもこれからの授業作りに役立てていきたい。

〔Step2 研修の趣旨〕 教職経験年数7年目から10年目の教員に対し、指導力の向上を目指し、教育論文作成を中心とした研修を行う。

No.	学校名	氏名	学年	教科	年数	No.	学校名	氏名	学年	教科	年数
1	三条小	六田 将司	5年	国語	8年	6	第三中	木南まゆみ	3年	数学	8年
2	井栗小	原 沙恵子	1年	生活	9年	7	第四中	石井 雄介	3年	理科	8年
3	大浦小	小熊 香	5年	外国	10年	8	第四中	小林 美穂	2年	理科	10年
4	森町小	野口 大樹	6年	算数	8年	9	大崎中	荒井 崇博	1年	数学	8年
5	第二中	大野 貴章	2年	国語	9年	10	下田中	齋藤 洋美	特支	特支	8年

〔注〕 生活：生活科 外国：外国語活動 その他の表記については、Step1 研修と同じ

【受講者の声】 ※評価 大いに役立った：100%

- どのようにすると生徒の理解が深まるか、じっくりと考える機会となった。
- 生徒の学び合いが見られるようになってきました。
- 楽しく学べる教材研究に、チームとして取り組めたのが良かった。
- 生活科を通して、児童の「学びたい」という学習意欲について考える機会となった。
- 主題や計画をしっかりと設定したことにより、普段の授業と比べると内容の濃い、丁寧な指導ができたと思う。また、論文の作成の過程を経て単元の指導を行う上でのポイントや生徒の考え方を深く知ることができた。これらのことをこれからの授業実践に生かしていきたい。

## 第四中区「第2回全体研修会」

2月5日午後2時30分～4時40分、標記の会が第四中学校で開催されました。「もうすぐ春かな」と思うような天候の中、4校教職員による熱心な協議が行われました。研修会の様子を紹介します。

【各部会】 ー平成26年度の振り返りと平成27年度の活動について話し合われましたー



### 学力向上部

- 4本柱での取組は継続する。
  - ①学びのガイド
  - ②家庭学習強調週間
  - ③授業改善、授業力アップ
  - ④小中一貫カリキュラム
- 乗り入れ授業は実施時期・内容・進め方等、中学校教員と連携をより細やかにする。小学校教員の活用を進める。
- 教科研修会のもち方を工夫していく。(例) 乗り入れ授業のための情報交換の場とする。



### 豊かな心の育成部

- 3本柱での取組は継続する。
  - ①あいさつ運動
  - ②小6交流活動
  - ③深めよう絆集会
- 運動期間以外での活動の充実とあいさつの習慣化を図る。地域への回覧は継続する。
- 9月に実施した小6交流活動は、7月に戻して実施する。
- 絆集会は講演会と交流活動の2本立てを継続する。運営は第四中を中心に進めていく。



### 健康・体力向上部

- 4校合同陸上練習について2日連続は大変だったので、日を空けて9月に実施する。
- 3校合同陸上練習は来年度も陸上競技場で種目別に実施。
- 生活習慣アンケート(小4～中3)は継続して実施する。
- 「学習・メディアチャレンジカード」を来年度は単独で実施する。
- 3校の小4を対象の「メディアに関する講習会」は好評だったので来年度も実施する。



### 【全体会】開会の挨拶(戸田第四中校長)

「小中一貫教育に関するアンケート結果」を見て嬉しくなった。第四中区の小中一貫教育が、中学校入学に対する不安の軽減や思いやりの行動等に成果をあげていることが分かった。教職員アンケートでは改善した項目が増えている。低評価の項目もあったが、それだけ先生方が厳しく振り返っているものとする。

### 〔「全国サミットin姫路」視察報告〕

- ・ 乗り入れ授業がしやすいように、小・中学校で校時表をそろえていた。
- ・ 小学校では中学校の内容にふれる(発展)、中学校では小学校の内容を振り返る(復習)等の授業改善がなされていた。
- ・ 9年間の系統的な学びの取組として、学習規律、自立ノートの活用、学力向上マップと個人カルテの活用、視写活動等を実践し、学力の向上に努めている。

### 〔「東京学芸大学附属竹早幼稚園・小学校・中学校」視察報告〕

- ・ 幼稚園～中学校まで11年間を成長の4つのステージ(下記)で推進している。
  - 第1(4歳～小2前期) やりたいことと思うことを存分やろうとする
  - 第2(小2後期～小4前期) 集団と自分との関わりにひたる
  - 第3(小4後期～中1) 集団との関わりの中で自分とは何かを意識する
  - 第4(中2～中3) 集団の中で自分らしさを追究する
- ・ 算数、数学部で指導案検討を行っている。公開授業では小6と中3で同じ領域(統計)で実施。成長・発達の過程による思考の変化を読み取るのに有効。



☆各部会からの報告…各グループの責任者が報告しました。(上記【各部会】を参照)

☆長谷川保内小校長が「今年度の取組を真摯に振り返った活発な話し合いだった。年々子どもたちの交流が深まってきており、目指す子ども像に近づいてきていると思う。今後も第四中区の教職員が連携・協力し子どもたちのよりよい成長を目指しましょう。」と力強くあいさつし、閉会しました。

## 第10回 小中一貫教育推進委員会 ~2月10日~

### 協議事項1 平成26年度三条市共通の小中一貫教育に係る点検 ・評価実施アンケート結果と考察について

教育センターでは昨年12月に実施した「三条市小中一貫教育についてのアンケート」を集計・分析し、小冊子にまとめました。その冊子をもとに担当指導主事が考察部分を中心に説明し、委員からご質問・ご意見をいただきました。以下主なもの。

Q 今年度と昨年度との比較はよく分かったが、経年比較という視点はおもちゃかどうか？昨年度の中学校2年生が今年度中学校3年生になってどう変化したかという分析をするお考えはないか？

A 現在はそこまでやっていない。今後検討していきたい。

Q 学区のデータが送付されてきたが、どう活用したらよいか？例えば市全体と三中区との比較とかを資料として使用してよいか？

A 各中学校区で積極的に活用してほしい。教育センターでも学区担当指導主事が分析し、後日摺り合わせをしたい。ただ、数値だけが一人歩きしないように十分配慮してほしい。

Q 第4章に「小小交流活動」の成果が記されているが、他の項目も全体を総括した評価（成果と課題）が必要だと思うがどうか。

A 今後、中学校区の先生方と細かく分析・検討を行っていきたい。

第4章は主な成果だけを掲載した。課題等は指導主事が中学校区に入って一緒に考えていきたい。

### 協議事項2 小中一貫教育の制度移行に向けた検討組織設置（案）について

【設置の趣旨】 国の（仮称）小中一貫教育学校等の法制度化を捉え、三条市における小中一貫教育の制度移行に当たって、学校、保護者、地域と市教育委員会とで係る課題等について検討を行う組織として、現在の三条市小中一貫教育推進委員会内に部会を設置する。

【組織の名称】 制度移行検討部会 事務局：小中一貫教育推進課、教育センター

【組織構成】 推進委員会委員（学校教職員代表・保護者代表）から複数名を部員として選出  
上記に加え、市内小中学校長・教頭・教諭、保護者・地域住民から数名選出  
※上記部員の選出は事務局が行い、第11回推進委員会で決定する。

【検討事項】 ○小中一貫教育制度移行に係る課題等について（学校組織・運営、教育課程編成等）  
○三条版コミュニティスクールの設置に係る課題について（組織・運営、業務等）  
○制度移行に向けたスケジュール及び諸準備等について

【今後の予定】 4月～5月：部員選出 5月中旬：第11回推進委員会で部員決定  
6月中旬：第1回制度検討部会、以後年内に1～2回部会を開催



### 教育の窓

～昭和60年代初の教育現場のひとコマです～

5・6年生を2回担任した後、最初で最後となる1年生を担当しました。本当に大変でした。「皆さん」と言っても反応なし。名前と言うとやっと返事が返ってくる世界でした。43人という数にも戸惑いました。（当時は45人学級でした！）入学して少し経ち、学校探検をしました。何とか無事に終わり教室に戻ったら1人足りないことに気がきました。慌てて探したら、教務室にいました。途中ではぐれてしまい、泣いていたところを保護されたとのこと。授業中に些細なことと言い争いを始め、仲裁に入ったことも…。1年生は「異邦人」、いや「宇宙人」でした。

若い男の担任を不安に思っている保護者を安心させるために学校での様子を学級だより「ただいま」で細かく知らせました。これが大好評でした。「おたよりノート」に保護者からの感想・励まし・要望が毎日のように寄せられました。授業を成立させるために学習の流れを細かく考え、教材・教具を準備しました。多人数のため、家庭訪問、個別懇談、通知表の作成等何をするにも時間がかかり、他学年が羨ましかったです。生活指導面でも冷や汗をかくことが多く、教職11年目は内容の濃い1年となりました。大事な配布物を渡し忘れ、2時間かけて配ったことも……。翌年は2年生に持ち上がりました。あの苦勞が嘘のような穏やかな日々が続きました。（M）